



第68号 富士山ボランティアセンターニュース



「離れ笠雲」

2/14撮影

冬によくできる笠雲です。富士山から離れて笠ができるのが特徴です。離れ笠雲は次の日、晴れになると言われています。

富士山ボランティアセンターホームページ アドレス変更



2006年4月1日、富士山ボランティアセンターHPは、ホームページアドレスが変更になります。お手数をおかけいたしますが、ドメイン変更及び、ブックマークの変更をお願いいたします。
(※メールアドレスの変更はありません)

(新) 富士山ボランティアセンター

<http://www.yamanashi-kankou.jp/fujisan3776/>

今後、富士山関連の環境保全・観光情報は、下記の『富士の国やまなし観光ネット』内の富士山コンテンツから情報を発信していきます。

富士山

<http://www.yamanashi-kankou.jp/fujisan/>

また、富士山憲章の主旨に賛同し、「富士山1億人運動」にご協力いただける方へお届けしていますメールマガジンについても、より充実した内容としてタイムリーに配信いたします。今後とも、富士山の環境保全にご協力いただけますようご理解、ご協力をお願いいたします。



『富士の国やまなし観光ネット』は、これまで分散

していた観光・物産に関するホームページとメルマガをひとつに統合した、県と山梨ファンの皆さんでつくる参加型のポータルサイトです。県・市町村、観光事業者の皆さんからのニュースや、情報ボランティアからの新鮮な観光情報を集約し、発信していきます。

トップページアドレスは

<http://www.yamanashi-kankou.jp/>

富士山レンジャーという仕事(最終回)

あらためてレンジャーについて考える
—今後の抱負と進む道—

現在、富士山レンジャーは2名で活動を行っています。「たった2人で何が出来るの?」「もっと人数が必要じゃない?」よく聞かれる質問です。たしかに、常に2人1組で行動しているため、デスクワークをしているときや休日は現場に出ることはできないし、富士北麓という広大な現場をいちどにカバーすることも困難です。それでは「どれくらいのマンパワーが必要なのか」と問われればたちまち考え込んでしまうのです。なぜならこの問いは、私たちのすべき「しごと」そのもののありかたを問うているように思われるからです。

もともと、レンジャーという職業は北米の国立公園における現場管理官に由来しています。パトロールや自然解説を行い、現場で活躍するナチュラリスト型レンジャー—こうしたイメージは、まさにここからきているでしょう。威厳もあり、怒るととっても怖いのですが(私はリスをいじめて怒られました...)フレンドリーで私たち利用者の行う活動にも的確なアドバイスをしてくれます。全国で1万人を超えるレンジャーが活躍し、厳重な保護ときめ細やかな管理が行われているアメリカの国立公園を憧憬の眼差しで見る人も少なくないでしょう。同時に、日本の国立公園の現状やレンジャーの少なさを嘆く声もよく聞かれます。

しかし、これらを単純比較し羨んだり、嘆いたりすることにあまり意味はないと考えています。活動の基盤となる国立公園のシステムそのものが異なるためです。公園管理者が土地利用の権限を直接有するアメリカ・カナダ等に比べ、日本の国立公園は土地の所有に関係なく線引きした区域を指定する、いわゆる地域制の公園制度を採用しています。前者では、利用施設やインフラの整備、土地の管理すべて同一の主体によって行われており、強力な政策を実施することが可能です。レンジャーの業務も膨大であり、公園内の治安維持から土地・施設管理、自然解説、遭難対策まで対応を行っています。一方後者では、遭難者が出れば県警が出勤するし、森林管理や土地の管理はそれぞれの所有者によって行われています。山火事になれば、消防署の出番です。国・地方自治体・民間事業者・住民など、公園内での事業や保護・管理に多くの主体が関わってくるのが、日本の国立公園です。このような事情を勘案しないと「日本の国立公園はレンジャーが足りない」とか「保護が充分でない」という議論は、おかしいものになってしまいます。

私たち富士山レンジャーも、公園づくりに多くの主体が参画する中のワンオブゼムであることをまず、認識する必要があります。レンジャーという名前こそありますが、その機能や業務は限られたものにならない得ません。こうした制約の中で効果的な業務を実現し、必要とされる存在になるために、次の2点を挙げ、抱負として連載を終わりたいと思います。

- ①現場主義の徹底—自然環境と利用の状態を常に現場感覚で捕らえること。自然と親しみ、そのすばらしさを伝える、ナチュラリストとしてのレンジャー
- ②交流・協働—富士山に関わる多くの人たちとの積極的な交流と協働。富士山を保全・継承するためには、社会的な合意の形成と協働が不可欠。行政組織としてのバランス感覚を備えたレンジャー。

(秋葉 圭太)

富士山茶屋

「春を告げる鳥」

三月になり、ふきのとうが顔を出しはじめ、春らしさを感じるようになりました。みんなさんは春を告げる鳥と聞いて何を思い浮かべますか。メヤリ「ウグイス」を思い浮かべる人が一番多いのではないのでしょうか。「ウグイス」は別名「春告鳥」と呼ばれるように、春を告げる代表的な鳥です。しかし、富士北麓地域には「ウグイス」以上に有名な春を告げる鳥がいます。それは、「農鳥」です。「農鳥」とは富士山の八合目辺りに出来る鳥の形をした雪渓のことです。四月から五月の農作業を開始する時期に現れるので「農鳥」と呼ばれています。かつては農作業の開始時期を知らせる鳥として、今は富士北麓に春の訪れを告げる鳥として親しまれています。今年、富士山に雪が少なかったため二月に一度「農鳥」が現れました。冬の寒さが厳しかった分、春が訪れるのが早いのでしょうか。



富士山ボランティアセンター、この1年



富士山ボランティアセンターは、平成10年に制定された「富士山憲章」を周知し、富士山環境保全運動の全国的な展開を図るための「富士山1億人運動」の推進拠点として次のような活動を行いました。

富士山憲章五合目重点キャンペーン

○富士山憲章五合目重点キャンペーン

『富士山憲章』を登山や観光で富士山五合目を訪れた方々に周知し、富士山の環境保全への理解と協力を呼びかける
ボランティア111名・配布物3,280組・募金額23,705円
○富士山エコトレッキング（精進口登山道、吉田口登山道、御庭～奥庭コース）
富士山の自然・歴史に関する解説を聞きながら散策し、清掃活動を行う

参加人数 のべ67名

○山岳ボランティア富士山クリーン作戦

山梨県山岳連盟、山小屋関係者等と共同して登山道から外れた山腹のゴミを回収
ゴミ回収量 約1、1トン

○富士さんへ謹賀新年

富士山のイラストに様々な思いなどを添えた年賀状を募集することで、富士山への愛着と自然環境保全の意識啓発に役立てる。

全国32都道府県から 応募総数496点

また、富士山の自然環境への理解を深めていただくため、富士山五合目自然解説や環境学習支援事業のコーディネート、富士山自然観察ミニエコツアーを実施しました。今後は富士山情報の受発信基地として『**富士の国やまなし観光ネット**』から、富士山の情報を発信していくことにも力を加えていきます。



今年は、山梨県が独自に採用した富士山レンジャーも加わり、共に『富士山憲章の周知・定着』を目指しました。

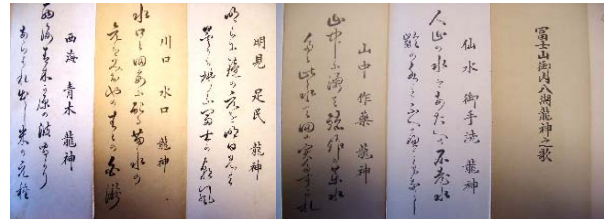
富士山ボランティアセンターは、富士山を取り巻く様々な環境の中で、山梨県の富士山環境保全の窓口として、未来の子供たちに美しい富士山をプレゼントできるような活動を展開していけたらと考えます。

富士山を学ぼう～ 富士八海

富士山は、昔から信仰の山とされ富士登拝や御中道巡り（富士山の中腹を一周する）など多くの信仰登山が行われてきました。富士山以外にも富士講の修行の場とされた場所があります。その一つに富士八海（内八海）があります。富士八海では、富士山に登る前もしくは登った後に身を清める水垢離（ミズゴリ）の修行が行われていました。富士八海と言っても富士の湧水で有名な忍野八海のことではありません。富士八海とは富士山の麓にある八の湖のことです。

富士八海は、山中湖・河口湖・西湖・精進湖・本栖湖のいわゆる富士五湖とあと3つの湖があるのです。

一つは富士吉田市の明見にある明見湖です。もう一つは、市川三郷町にある四尾連湖です。最後の一つは、富士吉田市の吉田口登山道沿いにある泉瑞です。かつては、富士市と沼津市の境にあった須戸湖だったそうですが、枯れてしまったために泉瑞が加えられました。八海にはそれぞれ龍神が祭られていて、龍神にささげる御歌が伝えられています。八海巡りが行われていた頃は交通手段も現代のように発達していなかったため、何日もかけて八海巡りを行っていました。それだけでも十分な修行になったのではないのでしょうか。今は、交通手段が発達しているので一日で八海巡りを行うこともできます。八海巡りをしながら富士山山麓の春を探してみたいはいかがでしょうか。



「富士山御内八湖龍神之歌」

八湖に祭られている龍神とささげる歌が書かれている。

資料提供（富士吉田市 御師の家大国屋）

富士山ボランティアセンターからのお知らせ



「富士山フォーラム2006」開催

富士山は、その雄大な山姿、美しい景観により、古くから多くの人々に深い感銘を与え「心のふるさと」として親しまれて、愛されました。

“霊峰富士”として、宗教から芸術表現に至るまで、私たちの精神文化に多大な影響を与えてきた富士山。その素晴らしい自然の魅力や歴史文化の価値について、もう一度みんなで見直してみませんか。そして世界に誇る日本のシンボルである富士山をしっかりと後世に引き継いでいくきっかけとしていただくため、「富士山フォーラム2006」を開催します。

◇日時 平成18年3月19日（日） 午後2時～4時

◇会場 四季の杜おしの公園 2階講座室（忍野村）

◇参加 富士山に関心のある方ならどなたでも参加できます。（参加費無料・事前申込不要）

◇内容 テーマ 富士山の尽きぬ魅力 ～自然、歴史、人～

- ・講演 「富士山の自然と楽しみ方」など予定
- ・パネルトーク 「富士山の尽きせぬ魅力とは」

◇問い合わせ先

山梨県観光資源課 富士山山岳担当 0555-223-1521

富士山憲章

- 1富士山の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 1富士山の美しい自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 1富士山の自然環境への負荷を減らし、人との共生を図ろう。
- 1富士山の環境保全のために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 1富士山の自然、景観、歴史・文化を後世に末長く継承しよう。

平成10年11月18日 山梨県・静岡県

富士山憲章は、富士山の自然環境等の保全の理念や環境保全のための行動規範を示し、富士山の環境保全を呼びかけ、国民的な規模で保全運動の展開を図っていくことを目的とします。富士山憲章に賛同していただく方は、富士山1億人委員会へ加入をお願いします。

お申し込み、お問い合わせ：富士山ボランティアセンターまで（※富士山ボランティアセンターHPでも直接入会できます。）

富士山ボランティアセンターニュース発行：

山梨県観光資源課富士山山岳担当富士山ボランティアセンター（富士ビジターセンター内）〒401-0301

山梨県南都留郡富士河口湖町船津剣丸尾6663-1



TEL 0555-20-9229 FAX 0555-72-4114

E-mail: fujisan@eps4.comlink.ne.jp

http://www.eps4.comlink.ne.jp/~fujisan/